

ぎおとし、西譽一人を改名し、念佛三昧の行人となつて、師弟ともなひ、國々をめぐられしが、死期を待こそおそければとて、伊勢の國わたらひの郡ぼたいせんといふ處にて、慶長十二年丁未五月廿五日に老やまんとし、師弟同じ日果られたり、皆人は是を見、此由を聞て、ゑんりゑど、ごんく淨土、不惜身命、住西方のけうげなれば、有がたしといひける處に、長生といふ人聞て、いや／＼此意ろには大に相違せり、新古今にうきながら猶をしまる、命かな後の世とても頼なければ、とよめり、此歌殊勝なり、夫命といつは、三千大千世界にみちたる大切の寶なれば、我は此世に千年までもあらばやといふ、愚老是を聞、あら面白の御沙汰どもや、龐居士は世をのがれてたのしび、九郎左衛門は死て後の世をたのしみ、長生は此世をたのしむ、いづれを是とやいはん、非とやいはんと、此義をたつとき、御僧に尋候得ば、是非の理、誰か是を定めん、いづれもたうとしとのたまひける、〔明良洪範 二十二〕秀吉公或時近臣ニ語ラレシハ、我ハ尾州ノ民間ヨリ出タレバ、草苺スベヲ知リタレドモ、筆取事ハエ知ラズ、今不慮ニ雲ノ上ノ交ヲナス、但シ我母若キ時ニ、内裏ノ御厨子所ノ下女タリシガ、玉體ニ近付奉リシ事アリ、其夜ノ夢ニ、幾千萬ノ御祓箱、伊勢ヨリ播磨へ、透間モナク空ヲ飛行ト見ツルヲ、又チハヤブル神ノミテクラ手ニトリテト云歌ヲ、夢中ニ感ジテ、我ヲ懷妊セラレ候、此夢ウレヒアヒヌト覺メテ、信長公ヨリユルサレテ、播州ニ發向シ、即時ニ討平ニゲ、夫ヨリ中國ニカ、リテ、毛利ト先陣セシ時ニ、明智ガ亂ヲ告來ル故、時日ヲ移サズ討テ上リ、主君ノ怨敵タル明智ヲ亡シ、紫野ニ於テ公ノ葬送ヲ執行シ、朝廷ニ請テ御贈官ヲナシ奉リ、一字ヲ建立シテ御位牌ヲ崇メシ、此等ノ冥加ニヤ、今我思ハズモ、貴身トナリヌ、サレドモ土民ナレバ、氏性ナシ、草苺ノナリ上リタル身ナレバ、古鎌足子大臣ノ御名ヲヨスガニ、藤原氏ヲヤ免サレント、此事申サレシカバ、イトヤスキ事ナリトテ、近衛殿ヨリ其御計ヲヒ有シ、九條禪閣殿下公、種道聞シ召シテ、攝家ハ何レモ隔ナシトイヘドモ、長者ハ當家ノ事ナレバ、近衛殿ノ御マ、ニハ成ベカ